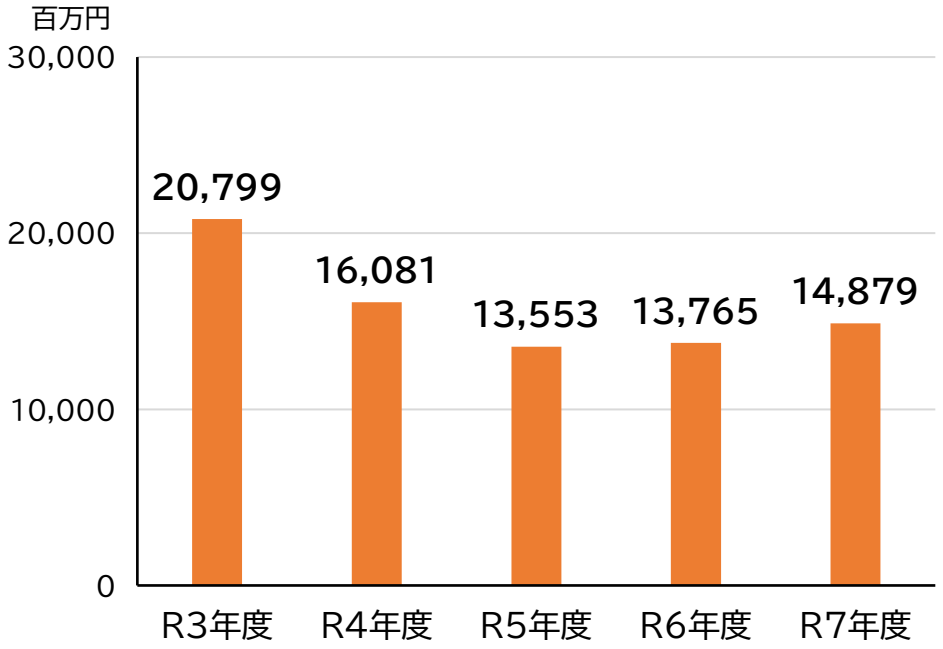
資料4

令和7年度の林業信用保証実績の概況について

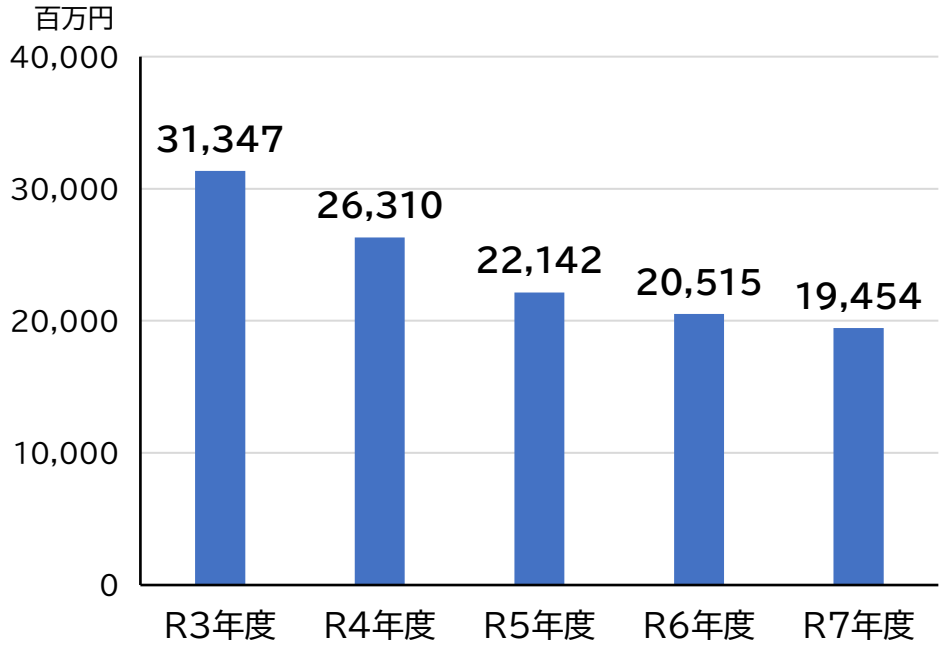
1　保証引受

- 令和7年度の保証引受は、149億円(前年度比108.1%)と増加した。
- また、保証残高は、既往債務の返済もあり、195億円(前年度比94.8%)と減少傾向にあるが、新規保証引受の増加に努めた結果等から、その減少幅は縮小傾向にある。
- 今後も、資金を必要とする林業者等に、適切に信用保証サービスが提供できるよう、融資機関との意見交換や勉強会の実施といった取組を通じ、部門一体となって制度の普及、融資機関等との連携強化を図る。

＜保証引受額の推移＞



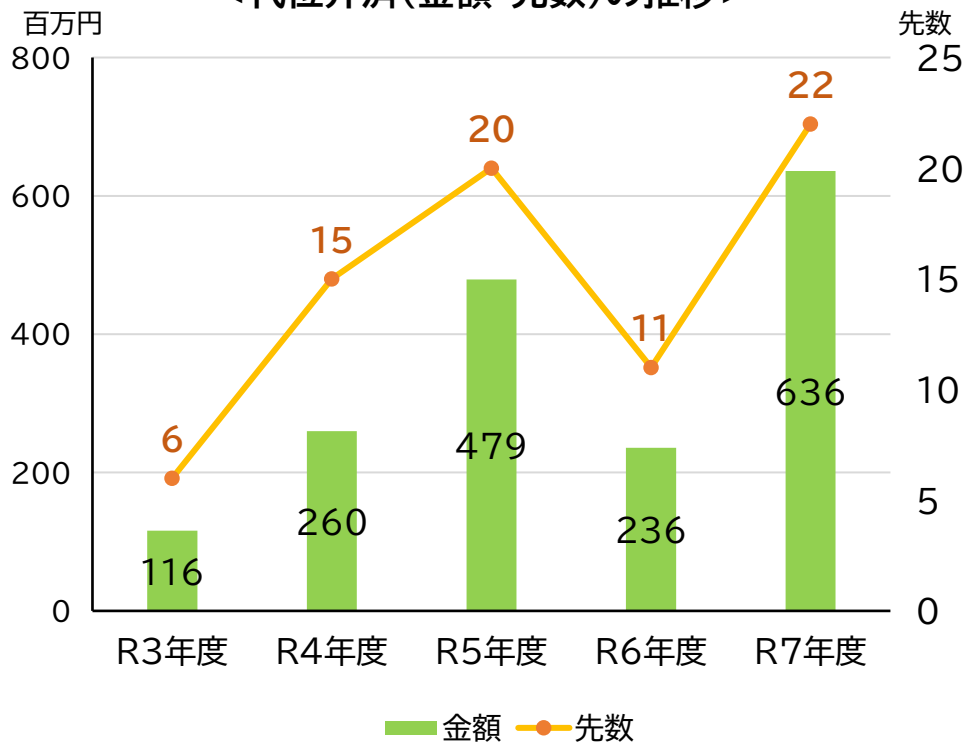
＜保証残高の推移＞



2 代位弁済

- 令和7年度の代位弁済は、金額636百万円(前年度比269.6%)、先数22先(前年度比200.0%)となり、件数・金額ともに大幅に増加した。
- これは、木材の最大の需要先である新設住宅着工戸数がリーマンショック時などを越える62年ぶりの低水準にまで激減したことに加え、燃料費や人件費の上昇、価格転嫁の遅れ等もあり、木材・木製品業を取り巻く環境が厳しい状況にあるためと考えられる。
- 今後も木材・木製品業を取り巻く厳しい経営環境が続くことが懸念されることから、その動向を注視するとともに、融資機関と連携しながら期中管理を適切に実施し、条件変更等の柔軟な対応を通じて事業継続を支援していく。

＜代位弁済(金額・先数)の推移＞



＜代位弁済事由の内訳＞ (単位:先)

	経営不振	うちコロナ要因	人手不足	経営者の死亡等	偶発的要因	その他	合計
R6年度	9	4	0	1	0	1	11
R7年度	18	7	1	0	0	3	22

＜中小企業の業況判断指数(DI)の推移＞

	令和7年			令和8年
	6月	9月	12月	3月
全産業	10	9	12	13
木材・木製品	▲7	▲6	3	▲10

注:1 日銀短観(日本銀行の全国企業短期経済観測調査)より作成
2 DIとは、「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものである。

＜倒産の状況＞ (単位:件)

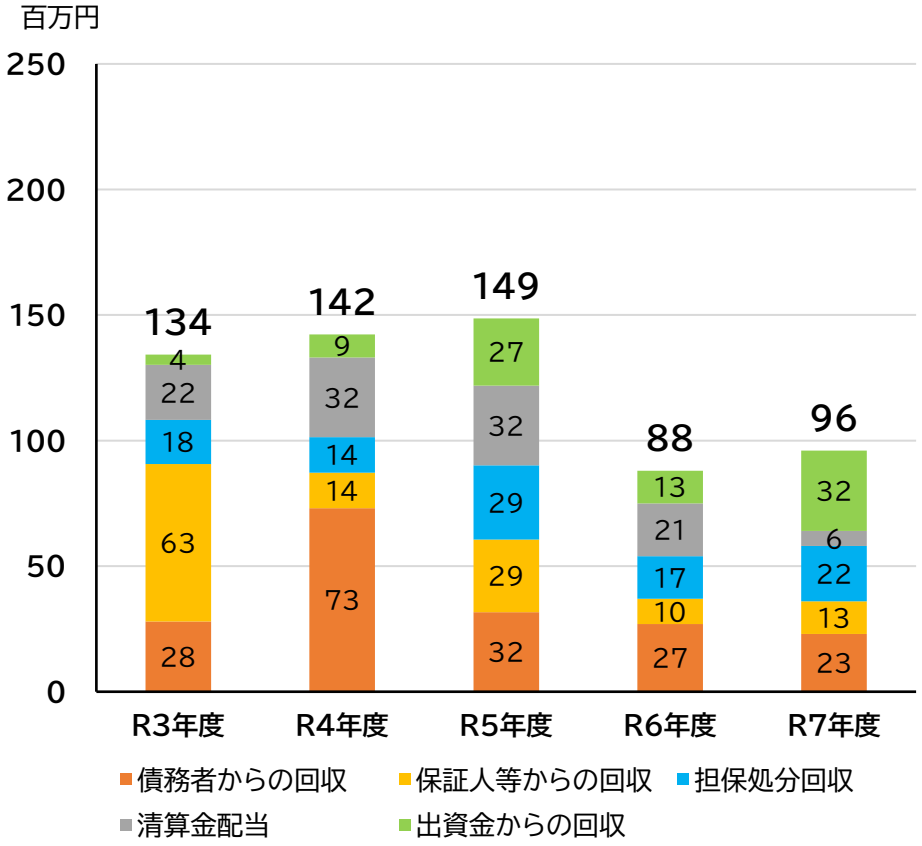
	令和7年			令和8年
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
全企業	2,533	2,639	2,671	2,662
木材・木製品	10	6	11	12

注: 株式会社東京商工リサーチ「倒産月報」より作成

3　回収金

- 令和7年度の回収金は96百万円(前年度比109.1%)であり、担保処分回収(対前年度＋5百万円)及び出資金からの回収(同＋19百万円)の増加により、前年度を上回る実績となった。
- また、効率的な回収や償却に努めた結果、求償権残高は概ね横ばいで推移した。引き続き、求償権の着実な回収に取り組む。

＜回収金の推移＞



＜求償権残高・先数の推移＞

